



この本を読まれる方に

21世紀は環境の時代と言われて久しいですが、人々の地球環境に対する興味は確かに高くなってきたのではないでしょうか。地球は人間だけのものでは無く、様々な生物が係わり合いながら多様に生息しています。そのような生物の多様化には、緑の存在は不可欠と言えます。都市に増やしてゆくことが難しかった緑を、屋上緑化は可能にしました。緑には様々な効果があり、それをこの本の登場人物は体験を通して学んでゆきます。皆さんも一緒に、緑の大切さを感じ取って頂ければ幸いです。

製作委員長 梶川昭則

あらすじ

かずき わかば
夏休みの自由研究に昆虫採集を選んだ一樹は、若葉と共に昆虫を探すがなかなか見つからない。そこへ二人の友人の博士が現れタイムマシンで過去や未来へ連れて行ってくれる。そこで見たのは今とは違う二人が住む町。やがて二人は現在・過去・未来の「緑の多さ」の違いに気づいていく。

主な登場人物



わかば
若葉



かずき
一樹



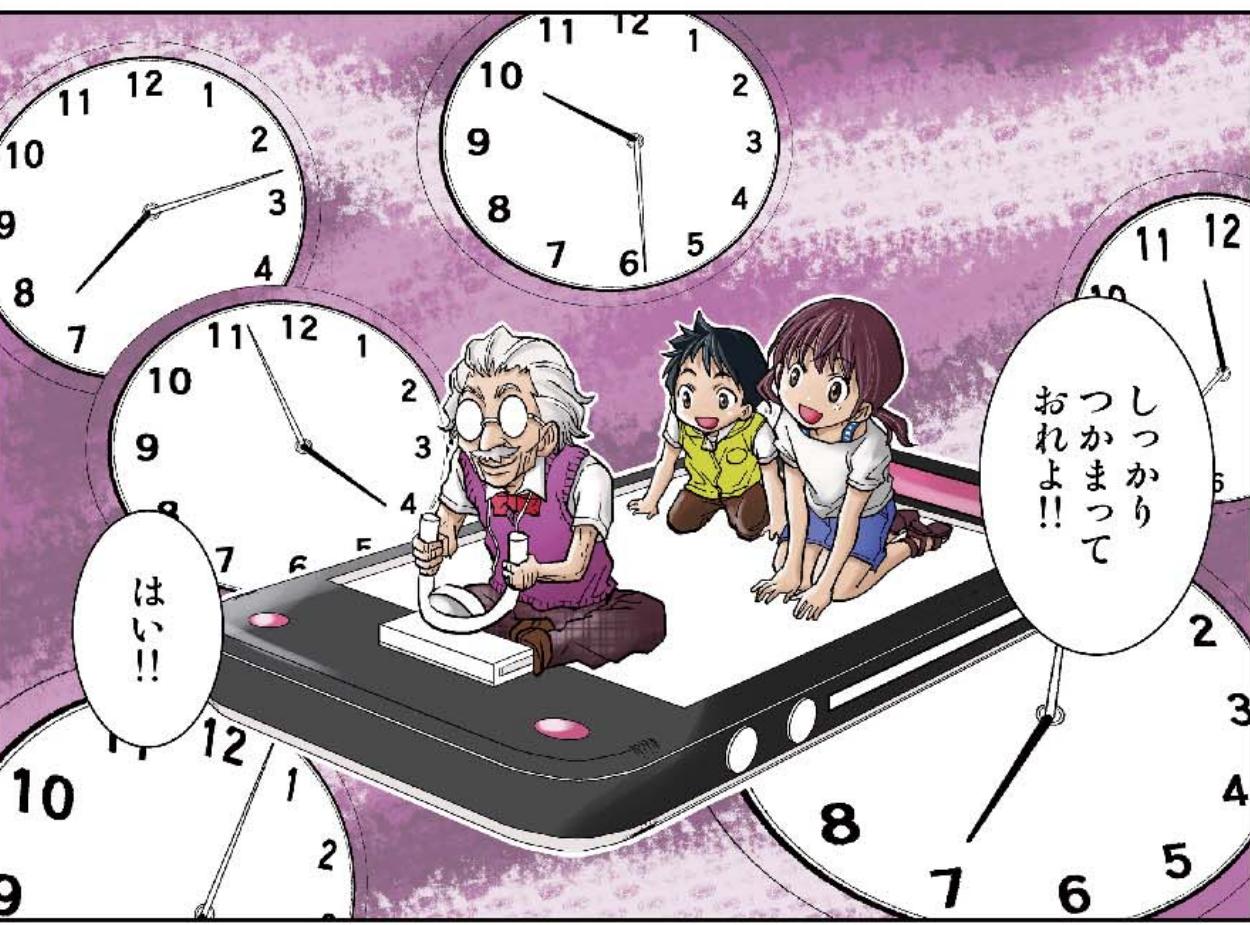
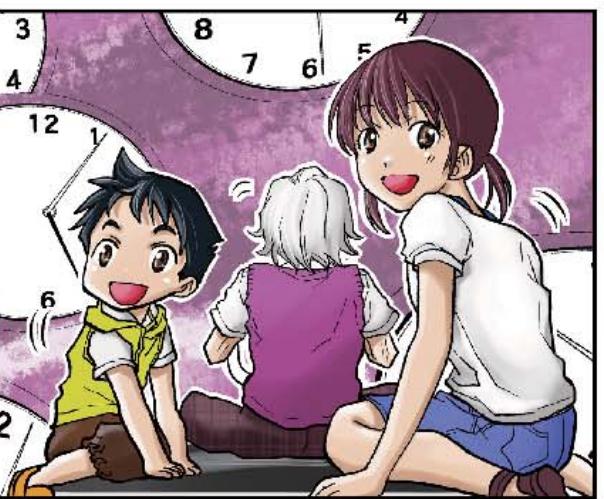
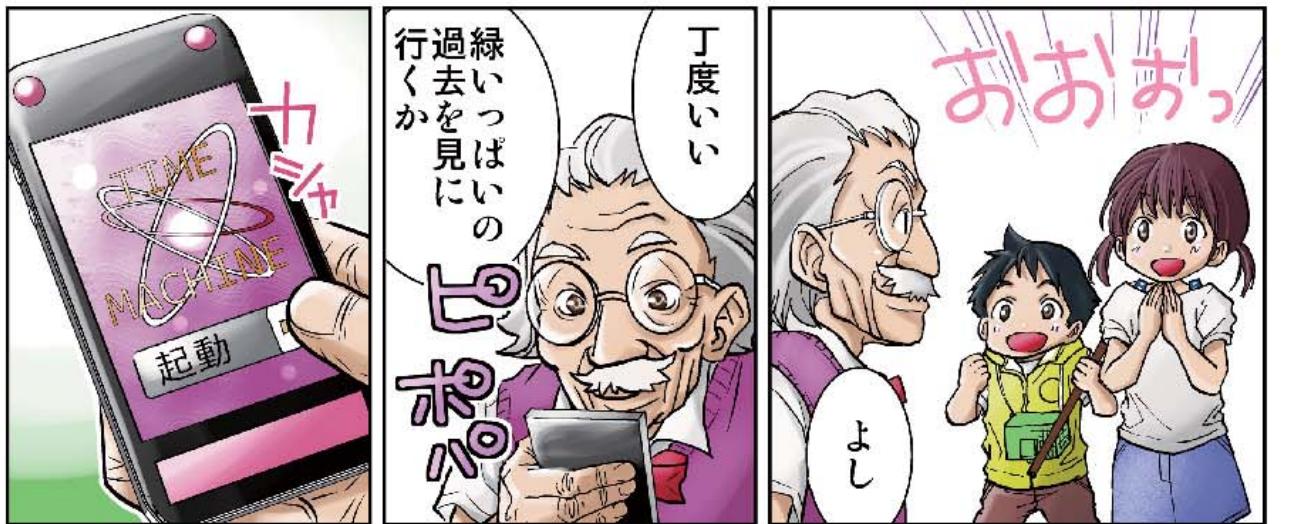
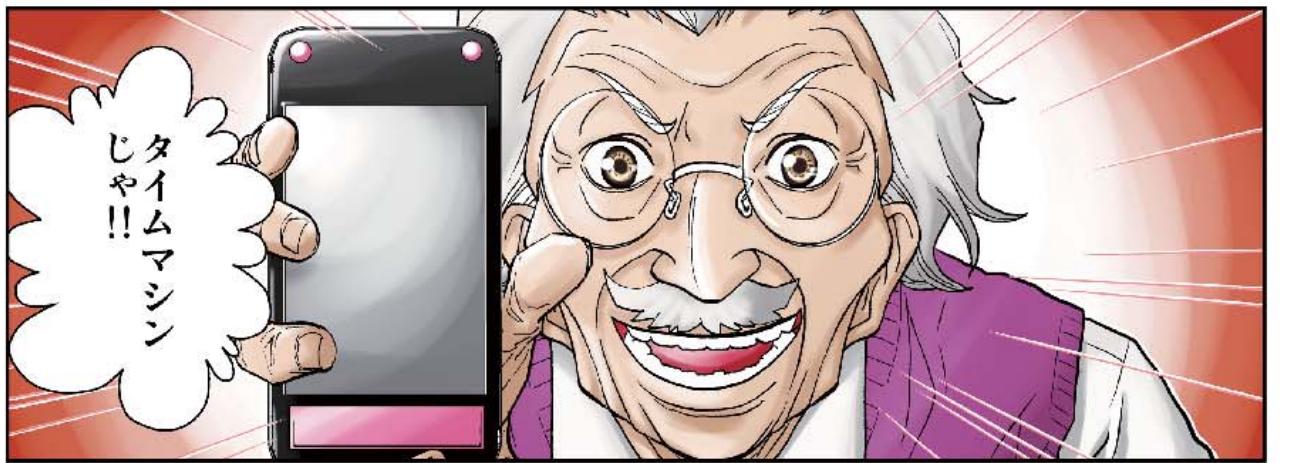
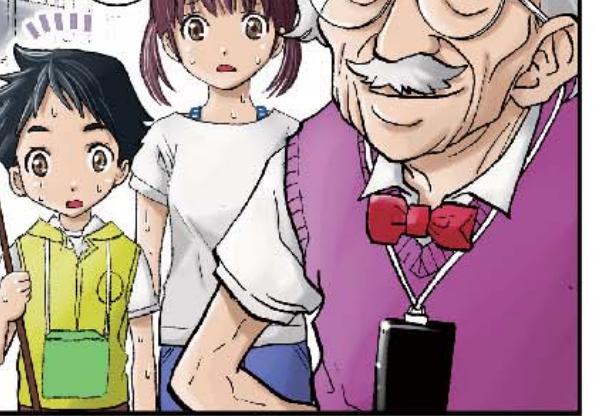
はかせ
博士

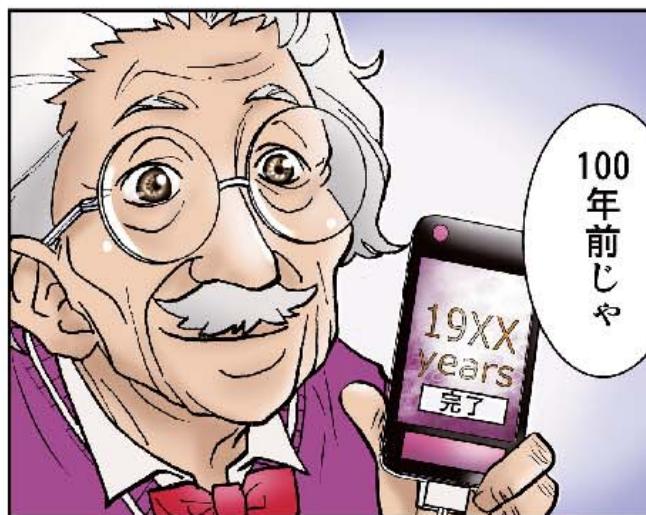
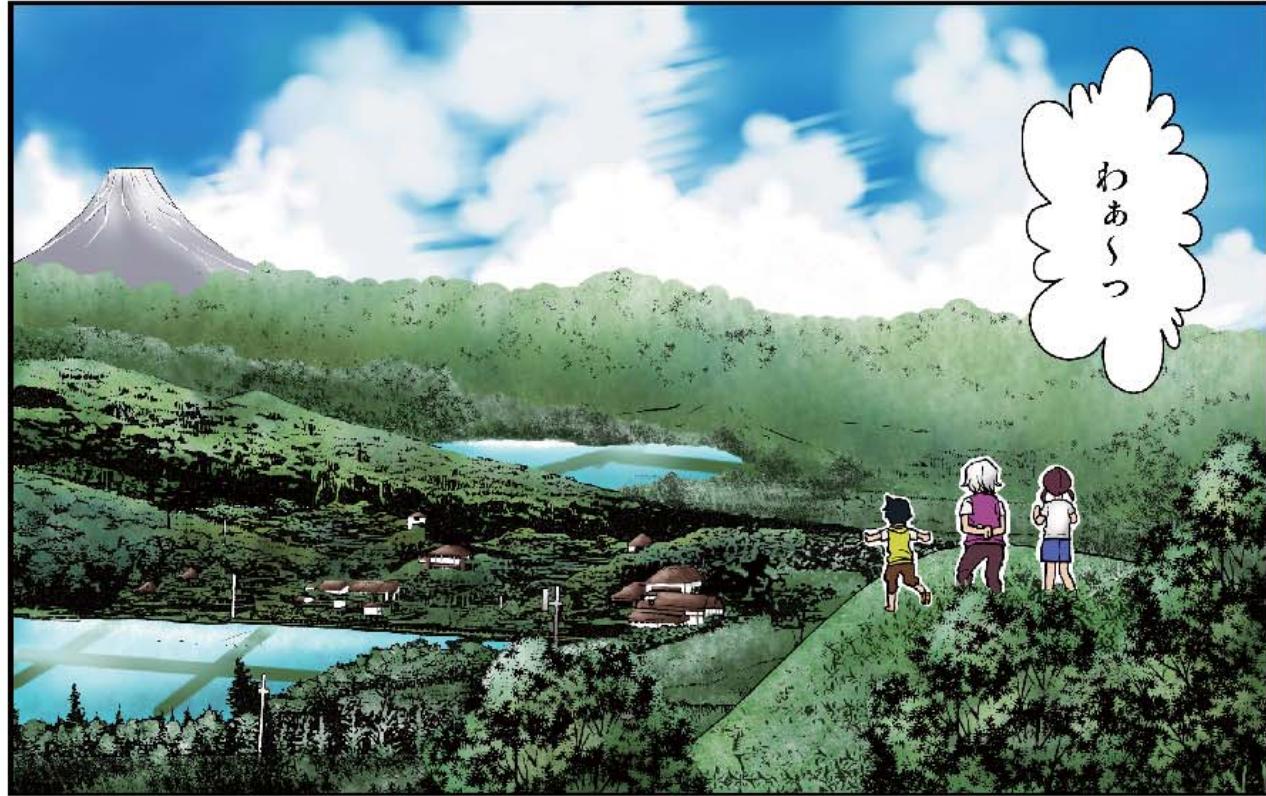
小学6年生の女の子。
めんどうみ
弟思いで面倒見のいい
おねえさん。

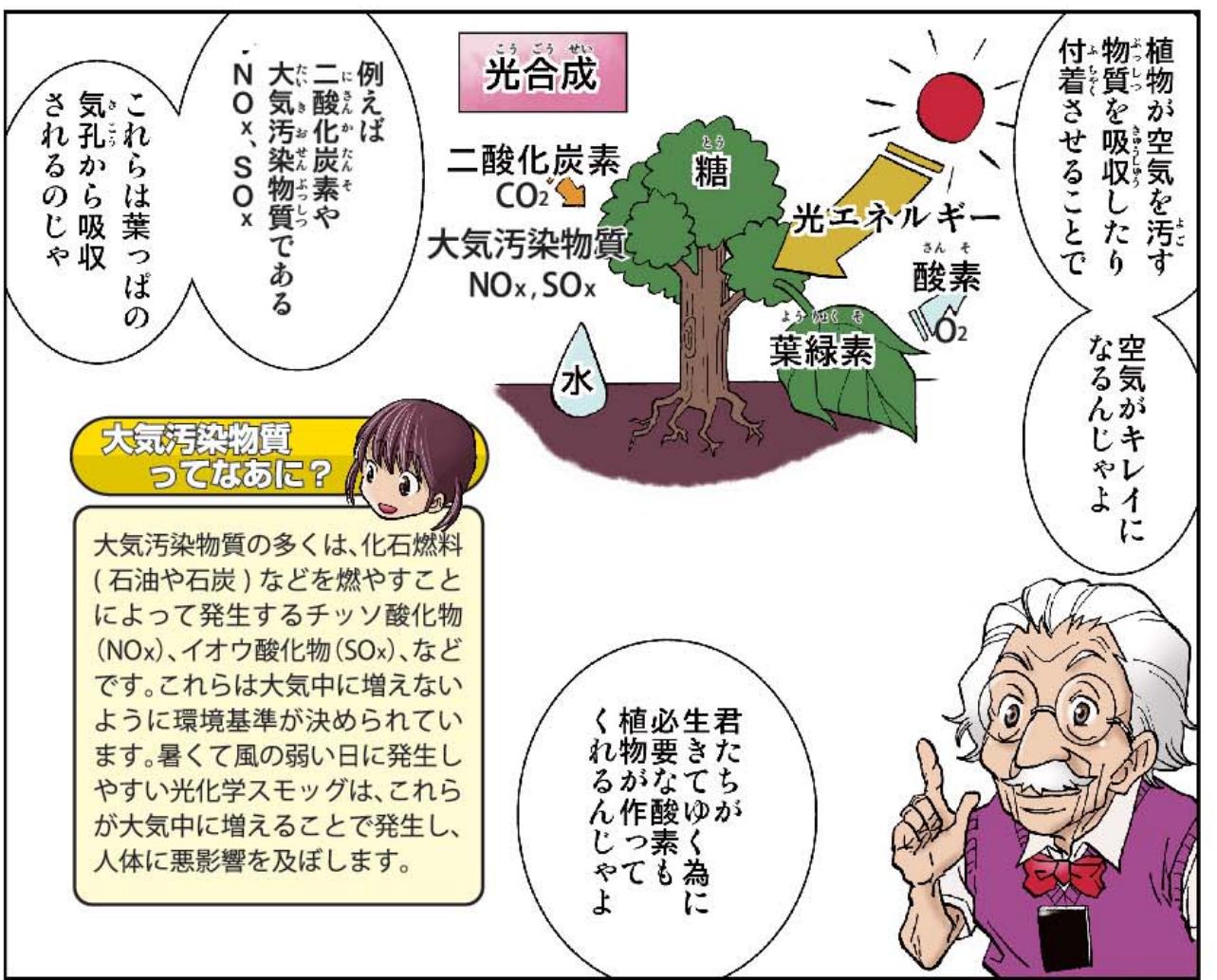
元気いっぱい！
おうせい
好奇心旺盛な
小学4年生。

発明したタイムマシンで
過去や未来に若葉、一樹を
連れていってくれる





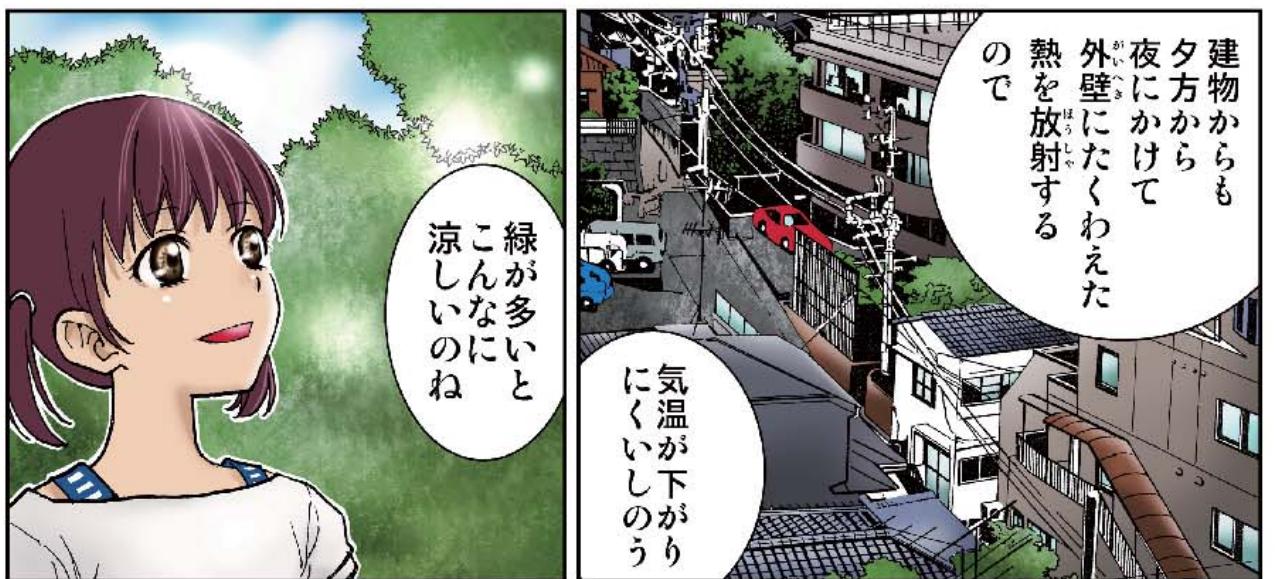
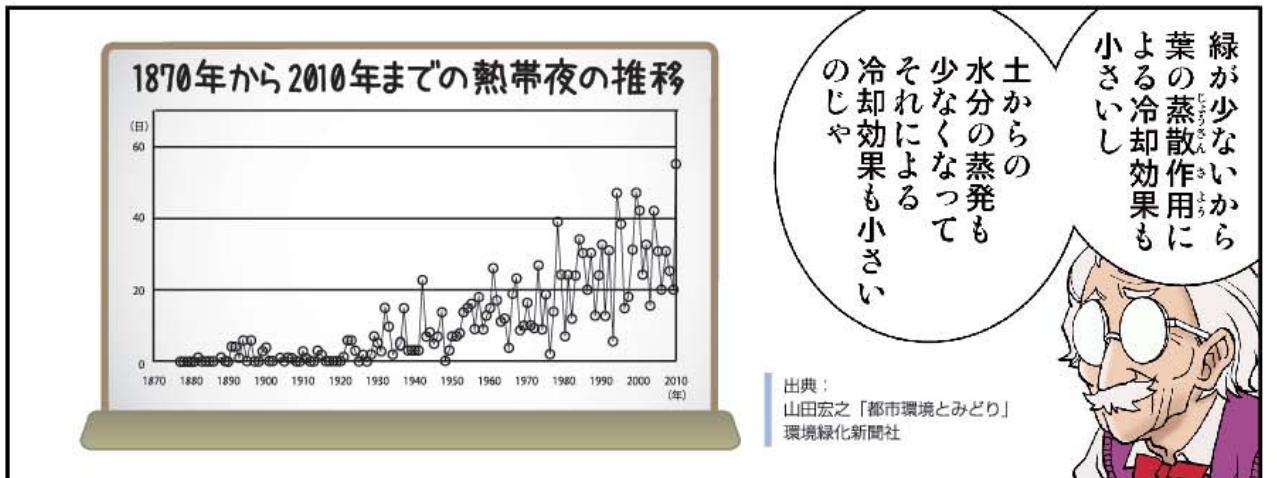
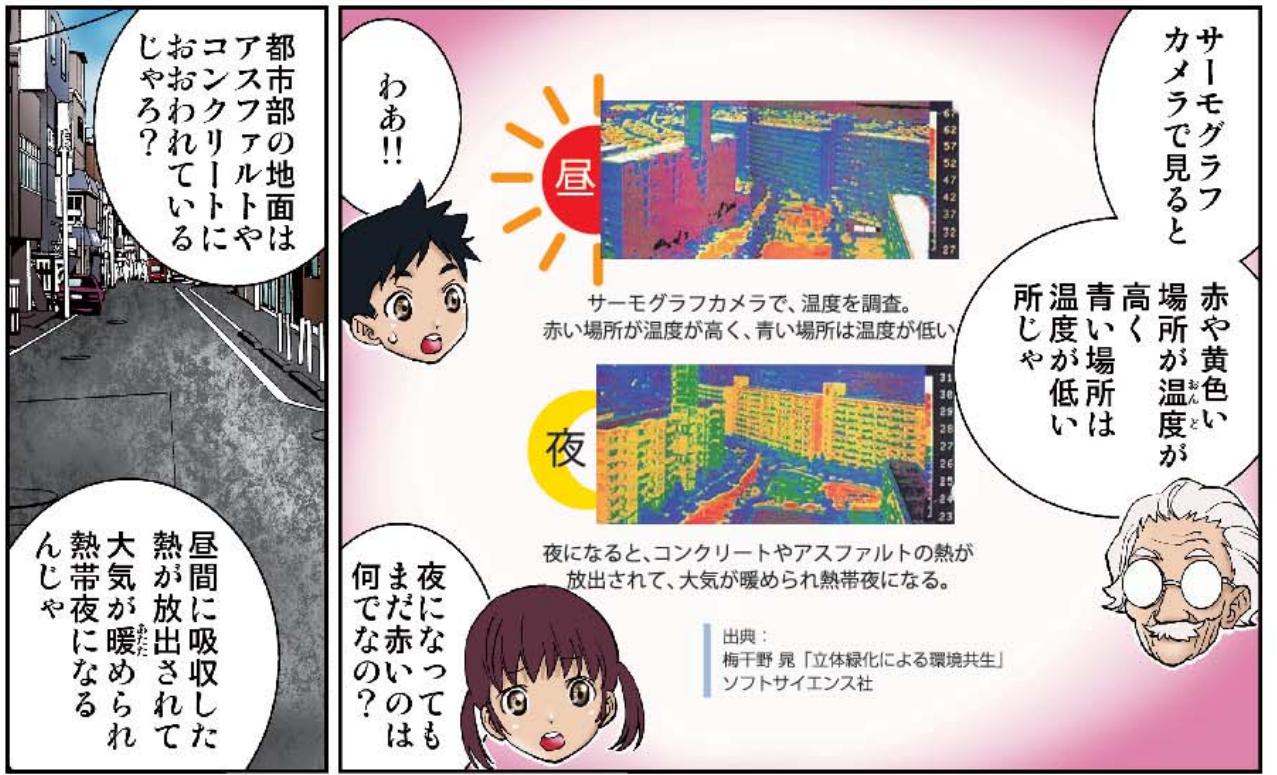


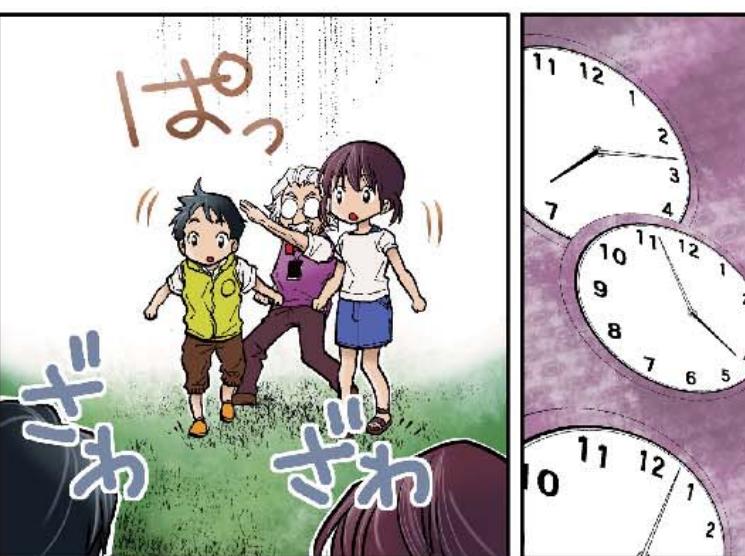
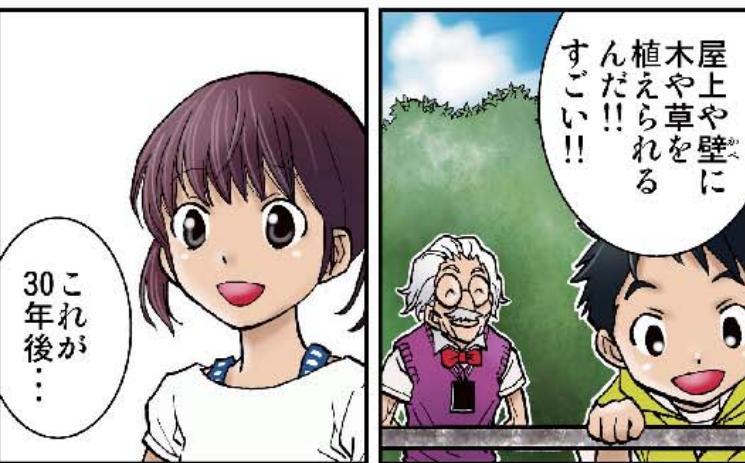


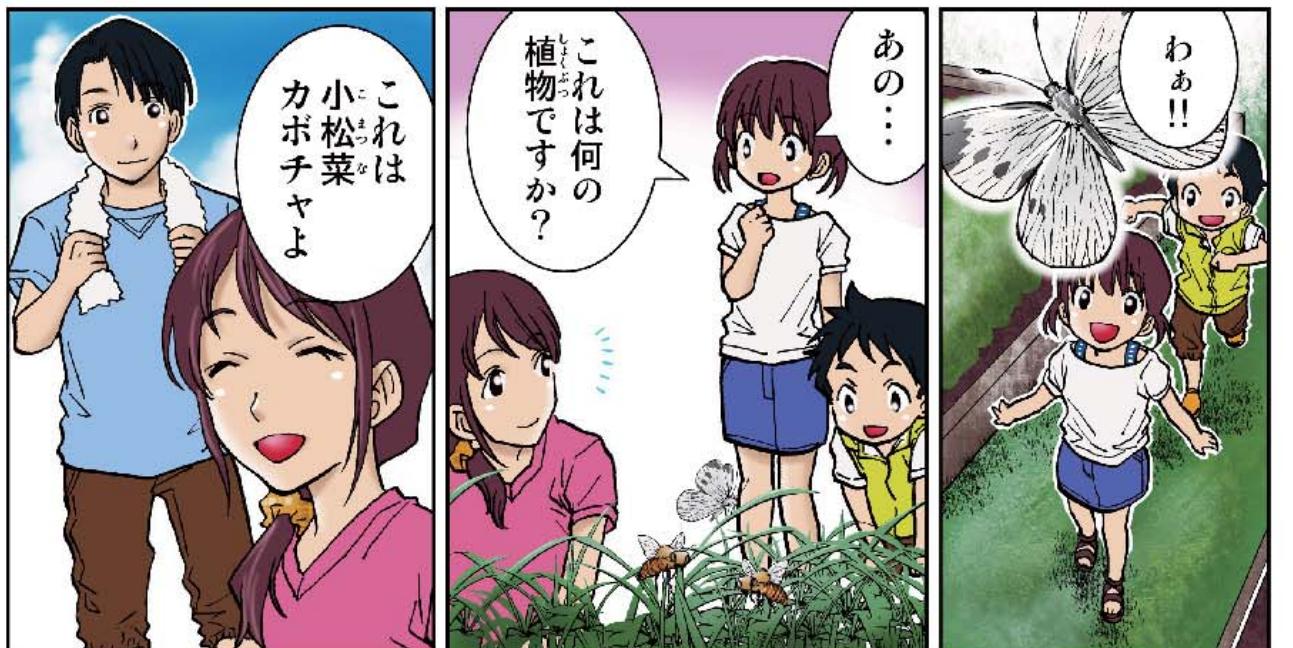
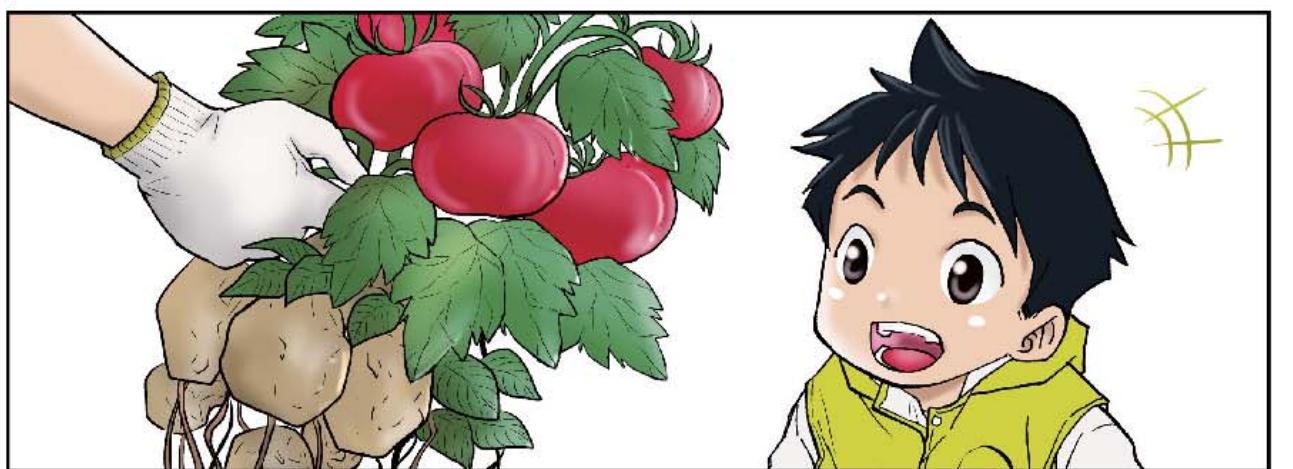
7

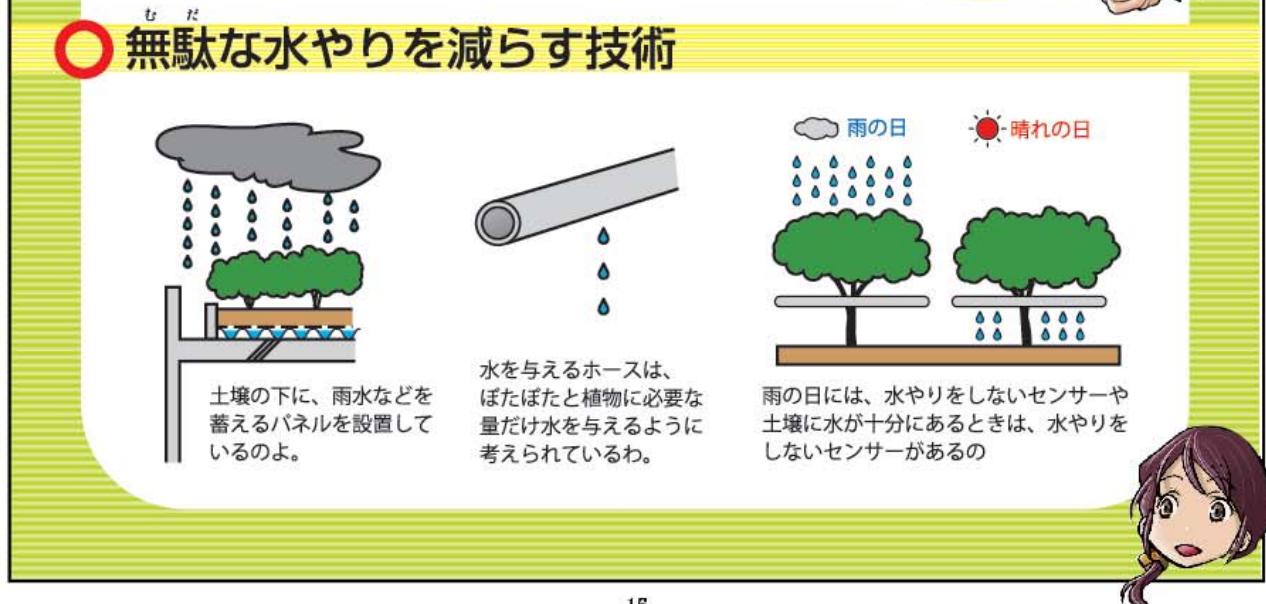
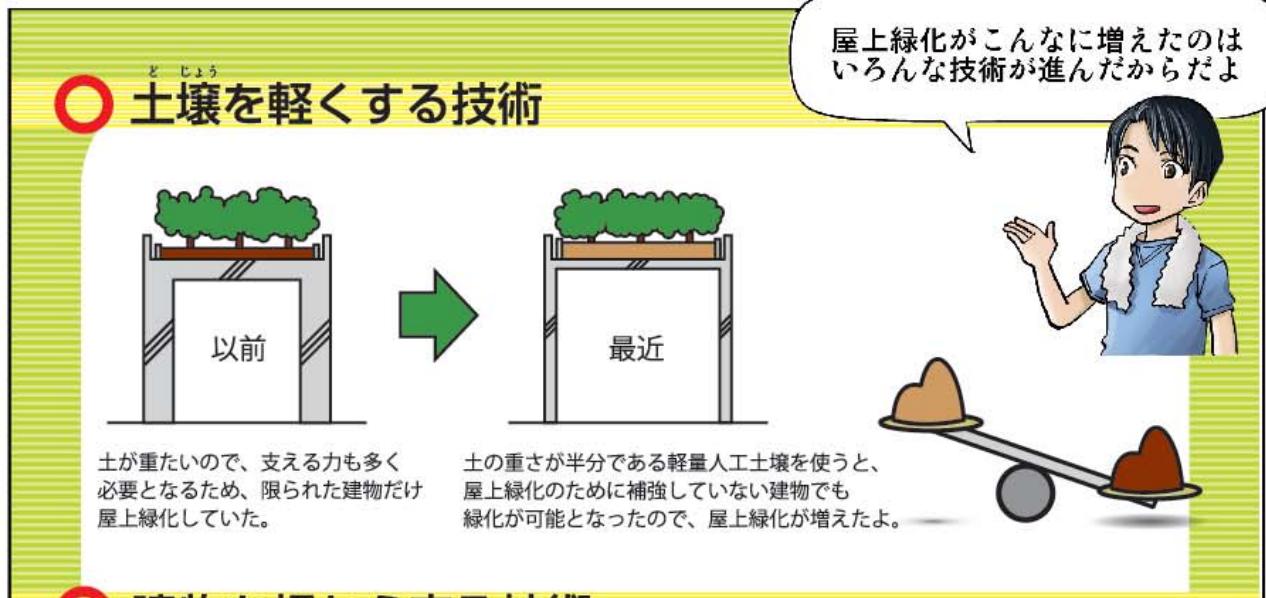
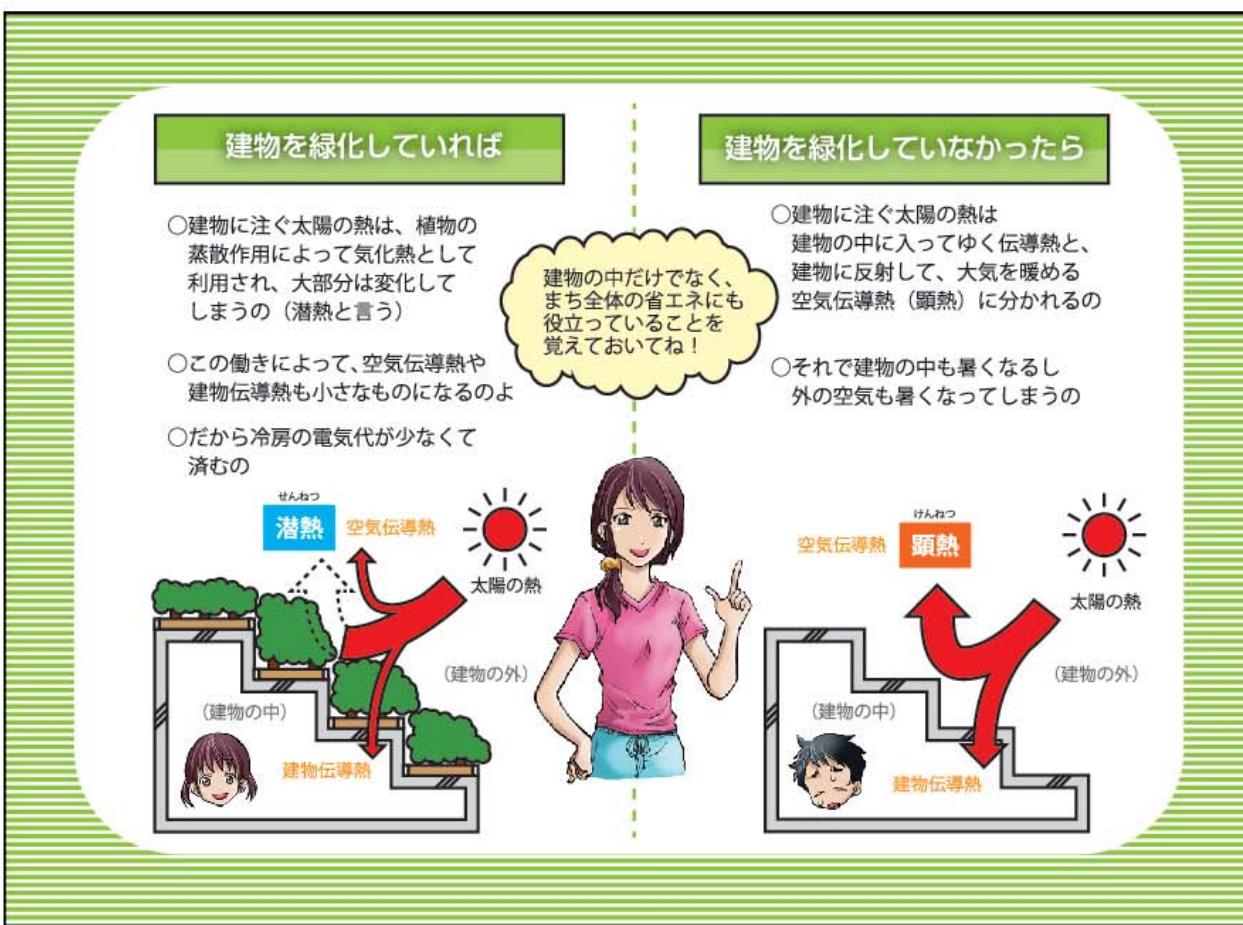


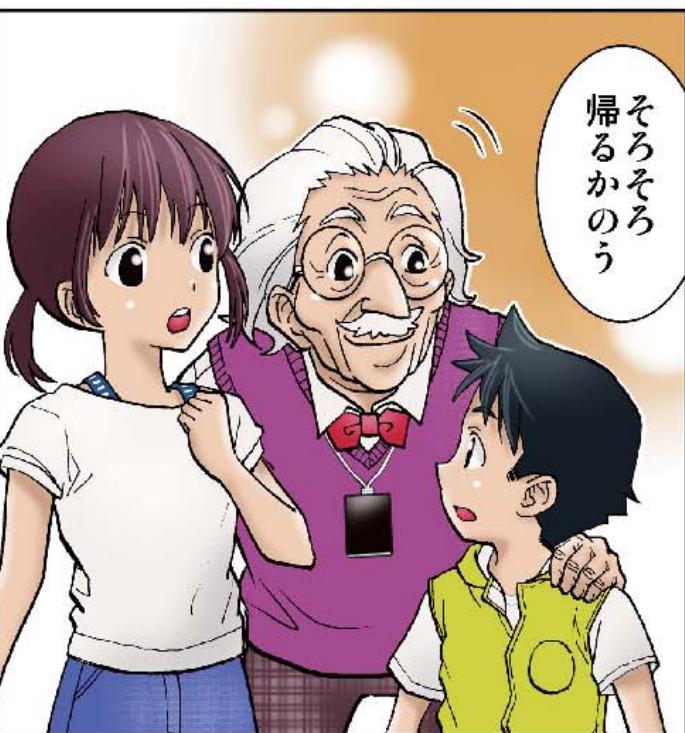
8

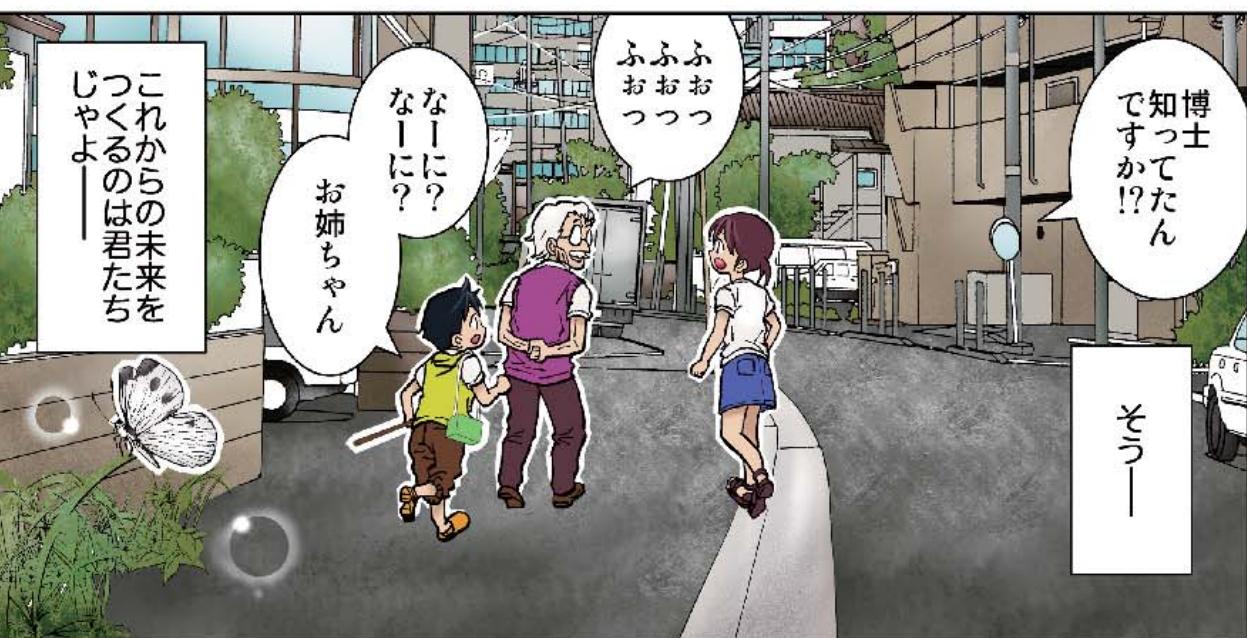
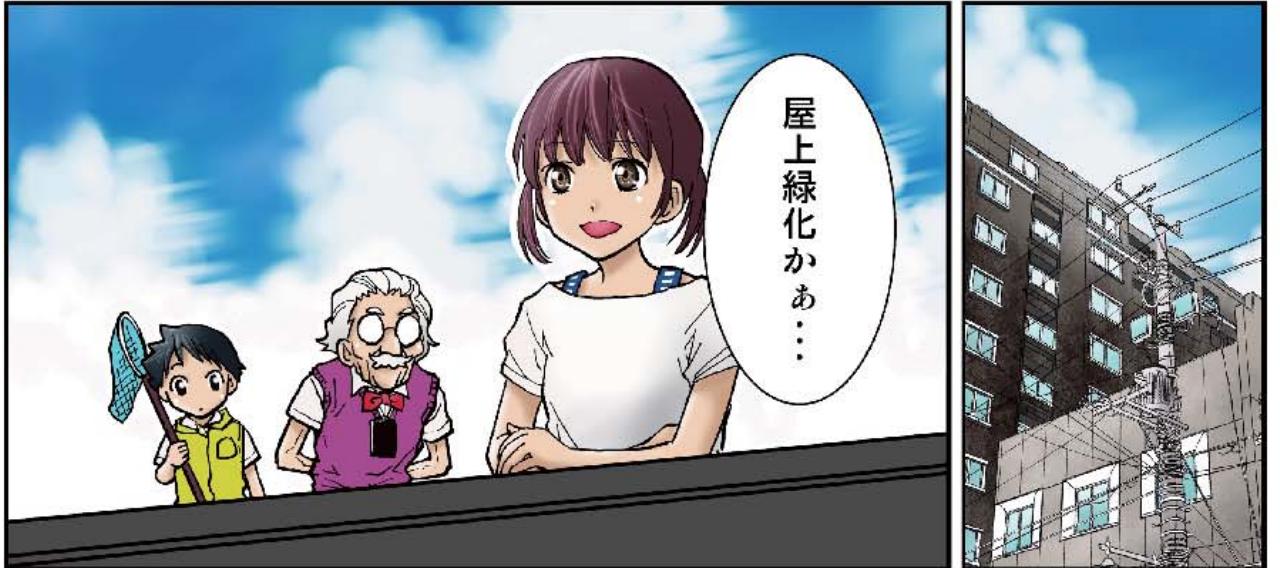














私たちは（財）都市緑化機構の「特殊緑化共同研究会」で、屋上・壁面・駐車場等、そのままで植物を植えることができない場所の緑化を研究し、普及・推進にはげんできました。現在東京都をはじめ、兵庫県、大阪府、京都府、その他多くの自治体で、屋上緑化を推進する条例が制定されています。その背景には屋上緑化の都市環境改善効果が、建築物の持ち主・使用者だけでなく、都市住民の全てが享受できる効果であることが挙げられます。しかし屋上緑化の効果は、広く一般には知れ渡っていないと感じていました。

屋上緑化の都市環境改善効果には、都市のヒートアイランド現象緩和効果、都市大気の浄化・CO₂固定効果、雨水流出遅延・抑制効果、生物多様性保全効果、都市景観向上効果があります。またそれだけでなく、建築物自体（持ち主）に対する、省エネルギー効果、建築物保護効果、宣伝・集客・企業アピール等経済効果、緑地面積への加算等土地有効活用効果が得られます。さらに、屋上緑化を利用する人に対し、微気象緩和効果、修景効果、癒し効果、菜園等での収穫等、緑化することの本来目的である効果も得られます。このような多くの効果が得られる屋上緑化について、少しでも関心を持って頂ける人たちを増やすことができればと、この本は製作された次第です。

多様な効果を得ることができ、多様な植物、多様な形態の屋上緑化が、今後益々増えてゆくことを望んでいます。

(財)都市緑化機構 特殊緑化共同研究会運営委員長 藤田茂

刊行物紹介

製作委員会

財団法人都市緑化機構 特殊緑化共同研究会 技術評価分科会

新・緑空間シリーズ



製作メンバー 梶川昭則（東邦レオ株式会社） 委員長

今井一隆（財団法人都市緑化機構）
大畠雅弘（株式会社富士植木）
大森僚次（レイ・ソーラデザイン株式会社）
倉田広昭（レイ・ソーラデザイン株式会社）
須長陽一（共同カイテック株式会社）
藤田茂（有限会社緑花技研）

細川洋志（大日本プラスチックス株式会社）

Q&Aシリーズ



てびきシリーズ

絵 島崎昇子
編集 株式会社スボマ
発行者 財団法人都市緑化機構 特殊緑化共同研究会
住所：〒101-0021 東京都千代田区外神田2丁目15番2号 新神田ビル8階
TEL：03-5256-7161 FAX：03-5256-7164
email：midori.info@urbangreen.or.jp

財団法人 都市緑化機構 特殊緑化共同研究会

